

—レタス—

レタス

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
晩 夏 ま き									●	▲	■	
灰 色 か び 病										——	——	——
菌 核 病										——	——	——
軟 腐 病										——	——	——
ヨ ト ウ ム シ										——	——	——
ハ ス モ ン ヨ ト ウ										——	——	——
ア ブ ラ ム シ 類										——	——	——

灰色かび病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) M5 【1000倍 14日/3回】
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000~2000倍 14日/3回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000~1500倍 14日/3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1 【1500~2000倍 7日/2回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) 7 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 11 【2000倍 7日/4回】

菌核病

留意事項

- 1 土壌中にネズミのフンのような黒い菌核が残り伝染源となる。
- 2 QoI剤(11)、SDHI剤(7)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 パレード20フロアブルの成分ピラジフルミドの総使用回数は、3回以内（但し、かん注は1回以内）。

防除方法

- 1 田畑輪換を図る。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 収穫残さをほ場外に持ち出し処分する。
- 6 定植前に、たん水処理を行う。
- 7 下記の薬剤を育苗時に施用する。
 - ・ [パレード20フロアブル](#) 7
 【100倍 セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4L)当り0.5L かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
- 8 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ベルコート水和剤](#) M7 【1000～2000倍 14日／3回】
- 9 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000倍 14日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) 1
 【1500～2000倍 7日／2回】または【1500倍 1.5L/m² かん注 45日／1回】
 - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 11 【2000～3000倍 3日／3回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) 7 【2000～4000倍 前日／3回】

軟腐病

留意事項

- 1 高温多湿時に多発する。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [マスタピース水和剤](#) －(生) 【1000～2000倍 前日／－】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [バリダシン液剤5](#) U18 【800倍 前日／3回】
 - ・ [スターナ水和剤](#) 31 【2000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ヨトウムシ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) [5](#) 【5000倍 3日/3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) [劇](#) [13](#) 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) [11A](#) (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)
 - ・ [ベネビアOD](#) [28](#) 【2000~4000倍 前日/3回】
 - ・ [グレーシア乳剤](#) [30](#) 【2000~3000倍 3日/2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [コテツフロアブル](#) [劇](#) [13](#) 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [プレバソンフロアブル5](#) [28](#) 【2000倍 前日/3回】
 - ・ [アファーム乳剤](#) [6](#) 【1000~2000倍 3日/3回】
 - ・ [ディアナSC](#) [5](#) 【2500~5000倍 前日/2回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) [UN](#) 【1000倍 7日/2回】

アブラムシ類

防除方法

- 1 寒冷しゃで苗を被覆し、侵入を防ぐ。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行う。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) [4A](#) 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 4 発生を認めたら、下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ウララDF](#) [29](#) 【2000倍 前日/2回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) [9B](#) 【3000~4000倍 前日/3回】
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) [4A](#) 【2000~4000倍 前日/2回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) [4C](#) 【2000倍 前日/3回】

ネキリムシ類

留意事項

- 1 ダイアジノン粒剤5の成分ダイアジノンの総使用回数は2回以内。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。

- ・ [プレバソフロアブル5](#) 28

【100倍 0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L） かん注 育苗期後半～定植当日／1回】

2 下記の薬剤を施用する。

- ・ [フォース粒剤](#) 劇 3A 【9kg／10a 全面土壌混和 定植前／1回】

- ・ [アクセルベイト](#) 22B 【3～6kg／10a 株元散布 前日／3回】

- ・ [ダイアジノン粒剤5](#) 1B

【4～6kg／10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時／2回】
または【6kg／10a 土壌表面散布 は種時または定植時／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。